

令和4年度移動教育委員会 意見交換会 発言要旨
(総合教育センター)

開催日時：令和5年2月3日(金)午前

場 所：静岡県総合教育センター

参加者：キャリアデザイン研修Ⅰ(小・中)参加者、静岡県総合教育センター職員、静岡県教育委員 など

1 所長挨拶(総合教育センター松下所長)

半日、研修の様子や学校の様子を感じていただきたい。

総合教育センターの基本理念として4つの柱「拓く、究める、創る、支える。(たくきゅうそうし)」を設定している。学び続ける人、探究する人、主体的に生きる、人の心に寄り添う等、現在の学習指導要領が求める教育を先取りしていると考えている。

本日の研修、キャリアデザイン研修Ⅰ(小・中)は40歳代前半の教員を対象としている。中堅教諭等資質向上研修に続く研修として位置づけ、昨年度開講されたものである。年間2回の研修を計画しており、1回目は7月に行われた。所属校において若手を巻き込んだ活動をする「メンタリングサークル活動」、所属校や地域において校内活動を改善するような組織的実践を行う「校内・地域協働プロジェクト」のいずれかを選択し、実践するよう課題が出ている。活動報告を紙にまとめており、本日は実践発表を行う。その様子を見学してもらう。

本日は他にもコンプライアンスに関する講義や、鳴門教育大学の前田教授をお招きしこれからの学校教育に関する講演、グループワークにて現在・未来の展望を語る活動を予定している。

40歳代は採用人数が少なく、5年後10年後にはこれからの学校の中心的存在になっていくと考えられる。それを踏まえて見学していただきたい。

2 施設概要説明(総務企画・ICT推進課山本課長)

- 沿革 前身の静岡県立教育研究所は昭和23年に設置された。平成7年に教育研修所、情報処理教育センター、教育相談の機能を併せ持つ形で掛川に開所した。掛川移転から27年が経過している。前身の静岡県立教育研究所からは74年の歴史がある。
- 施設の概要 管理研修棟の他に、生涯学習棟、宿泊棟、体育館等がある。2

部6課12班体制で総勢114名の職員で運営している。メインの業務として研修業務がある。基本研修、悉皆研修、希望研修等すべてあわせて今年度108本の研修を開講している。年度の平均は100本程度で推移している。来年度は97本の研修を開講予定である。

- 教育図書 総合教育センターは教職員の研修以外にも生涯学習機能をもっている。教育専門図書室として教育関係者をはじめ、一般の県民の方に向けて図書、資料等を収集し公開している。
- 教育相談 幼児、児童、生徒、保護者、教員等を対象に、不登校やいじめ、非行等学校生活に関する相談事業等を行っている。来年度スクールソーシャルワーカーを新たに2名配置し、体制の充実を図る。
- 生涯学習の推進 図書館以外にも、ゆうゆうポイントラリー、静岡県民カレッジ等を展開している。一般県民、学校の先生方を対象に生涯学習推進フォーラムを年1回開催している。
- 教育に関する研究・調査事業 今年度は各課で5つの研究を進めている。研究成果をまとめた研究紀要を発行するとともに、インターネット上でも公開している。
- 開放施設 図書室、講堂、体育館、テニスコートを職員だけでなく、広く一般県民に開放している。コロナ前は年間5万人ほど、現在は3～4万人ほどの利用があり、地域の生涯学習推進に役立っている。
- 県立学校（高等学校、特別支援学校）には、全校を対象にセンター職員が年1回定期訪問を行っている。教科指導や、校内研修に入ってセンターの研修と学校の教育を結びつける活動をしている。コロナで全校を訪問することが難しくなったが、今年度は全校を訪問することができた。学校のニーズに合わせて研修を行う、学校等支援研修も行っている。

3 意見交換

センター キャリアデザイン研修Ⅰは、高等学校、特別支援学校は40歳、小中学校は40歳～44歳を対象とした研修である。教職経験11年目に受講する中堅教諭等資質向上研修に続く研修として、前身であるキャリアアップ研修をリニューアルして昨年度から実施している研修である。現在の教員の年齢構成や中堅層の人数的薄さ、大量退職もあるという現状を考慮すると、ミドルリーダーの活躍、若手の育成が重要になってくる。コロナの影響で親睦を深めるようなインフォーマルな場での自然発生的コミュニケーション、知識や技能の伝達の場合

限られている。本研修はそういった課題を意識しつつ、自身のキャリアを考える機会と位置づけている。7月と2月の年2回の集合研修に加え、その間に所属校において学校の組織運営に関する校内実践を行うことになっている。研修の中でメンタリングによる人材育成の講義を行っているので、人材育成やコミュニケーションに関する実践を行う研修員が多い。本日はその実践報告の部分を見学してもらった。

今年度から50代を対象としたキャリアデザイン研修Ⅱも立ち上げた。定年に向かってトーンダウンしていくことなく、自身のキャリアを様々な視点から振り返り、自身の強みを生かした今後のチャレンジや、自らのもう一仕事について考える内容で行っている。

センター グループ発表の中で最初に自己紹介を実施した。本日のために特別に行っているものではなく、これからグループのメンバーが仲間としてともに協議する、そのスタートとして、雰囲気づくりのためにいつも行っているものである。

教育委員 前職が大学教員なので、ゼミをやっているような感覚であり、楽しませてもらった。生の声や思い、熱気を感じた。コロナによりコミュニケーションの制限がある中で、ちょっとした言葉のやりとり、ノウハウの共有を先生方は求めていると強く感じた。昨日実施されたコンプライアンス委員会で、風通しのよい職場づくりが重要であるという意見が教育委員から挙がった。教育実践のシェアを通して、新たな気づきを言葉にして交わしたり、思わぬ気づきを得たりすることが大切だと昨日に続いて今日も感じた。

私が参加したグループには特別支援学級を担当している研修員が多かった。以前はそういった児童生徒に関わることはまれだったが、今の時代ではどの教員にとっても自分事としてとらえる必要がある。経験のある先生はそれをシェアする、若い先生は知らない世界の知見を深めようという前向きな気持ちがあることが感じられてうれしかった。

教育委員 現場の先生方の意見を聞いただけでなく、中間層、中堅の先生方がデベロッパーとして初任者をどうリードしていくのか、自分がいちプレーヤーとして現場の何かを変えるだけでなく、学習者である子どもたちを中心として初任者とともにどう改善していくかという点で悩んでいる様子が、研修を通して

伝わった。改善を意識しすぎる余り、リードしすぎたという反省も出たことから、本研修が先生方の意識改革につながっていると感じた。自分も同世代で、コーチではなくコーチデベロッパーやエデュケーターの資格も取得しようと考えており、大変共感できた。

教育委員 これまであまり関わりのない養護教諭のグループに参加したので、知らない世界の話が中心であった。養護教諭が地域と連携する事例の発表を聞き、そのようなケースもあるんだと感心した。養護教諭がそのような事例を発信することが重要だと感じた。

中間層の先生方の中には、子育てをしながら業務にあたっている先生方もいる。他の先生方とお話したいが子育てやコロナのこともあり、時間や機会がない。生徒の話でなく自分の話をする機会を持つという実践をされた先生もおり、それにより交流が深まったとのことだった。いい活動なので続けられないかと聞いたところ、業務が多忙であり、子供の送迎等で忙しく時間がとれないので続けるのは難しいという生の声を聞くことができた。研修ばかりではなく、教員同士の人としてのつながりを持つことが風通しのよい職場につながると感じた。

教育委員会事務局 工夫しながら研修されていることがわかった。研修員として参加された先生方は、ミドルリーダーとしてやられてきた方だと思う。研修の中で他の方と話し合うことで自分自身の振り返りをしている。自分がミドルリーダーとしての役割を担っていることをもう一度自覚しているようだった。この研修を通して、もう一歩前に出て実際にやってみようという後押しになっている研修であると感じた。実際に話を聞くと、コロナの影響もあり職場の風通しが悪いと感じている先生もいるようであった。管理職と連携して改善してもらいたい。

教育委員会事務局 男女、校種も混ざっていたが、皆さん大変真面目に研修に取り組まれていた。ポスターにも時間をかけて取り組まれたようだった。話を聞く中で、県庁としては学校のためにやっている、改善されているはずだと思っていることも、先生方にはあまり理解されている状況ではないことがわかった。うまく、効率よく現場の先生方の役に立つことをしないといけないと感じた。

育休明けに仕事も家庭も忙しく、精神的に困った時期があり、後輩たちが同じ状況に立っているのを見て、なんとかしなければならぬと今回の実践に取り

組んだ先生の発表を聞いた。これは大きな問題であると感じる。こういう状況を乗り越えられる関係を、研修とは別に校内でつくっていかないといけない。

センター 今回の研修は2期目で、昨年度から始まった研修である。40代、ミドルリーダーを迎える時期に、これからどういう形で組織の中で取り組んでいこうか、一度立ち止まって考える機会を作れる研修である。本日の研修で発表した内容は、それぞれが普段感じてはいたが、様々な理由により実現できなかったことかもしれない。研修を通して実践までつながったことが大きな一歩であると感じる。同じ活動を続けていくことは難しいかもしれないが、コミュニケーションのきっかけになり、いい機会を得たという評価の多い研修である。

教育委員 研修のパワーポイント資料が秀逸であった。先生方の雰囲気をつくり、研修の目的やこの後の活動内容を明確に伝えるものであった。

センター 今回のキャリアデザイン研修Iは、研修員が学校に戻って若手や地域と一緒に取り組むきっかけとなるものである。この研修がなければ尻込みするところを、やってみようと思わせてくれるものである。継続していけば学校の活性化にもつながると考える。

また養護教諭はここ3年、多忙に多忙を重ね気の休まる暇がない日々を送っている。

今後も機会があれば研修を覗いていただきたい。

センター いただいた感想等をセンターで生かしたい。